○健康科学部看護学科の３つのポリシー

アドミッション・ポリシー

専門的な知識や技術、判断力及び倫理的な感受性を身につけ、地域包括ケアの時代に、医療施設のみならず保健・医療・福祉のそれぞれの分野で、社会からの期待に応えられるサービスを提供する専門職として活躍できる看護職を育成します。また、地域社会及び国際社会における看護の役割と機能に関心をもち、国際的視野を有する看護職を育成します。

【求める学生像】

１．人の健康と生命に関心を持ち、看護に関する学問・実践に意欲がある人
２．豊かな人間性を持ち、他者の権利と尊厳を重んじる態度が備わっている人
３．科学的かつ柔軟な発想をもって問題を解決する意欲と行動力を備えた人
４．主体性をもって多様な人々と連携・協働し、リーダーシップがとれる人
５．国際社会や異文化に対して広い関心を持った人

【高等学校段階までに修得しておくことが望ましい学力・能力水準】

１．大学で看護学を学ぶために必要となる諸科学に対する十分な基礎学力
２．自分の考えを他者に対し、口頭や文章で伝えることができる程度の思考力・表現力を身につけている
３．生徒会活動、特別活動等の諸活動に参加することで、主体的な行動力や協調性を身につけている
４．実用英語技能検定等の外国語関連資格取得に積極的に取り組む姿勢

カリキュラム・ポリシー

【教育内容】

看護学の基盤となる価値や理念を理解し、それらを具現化する基礎的な知識、思考力・判断力・表現力を養成するために、教養および看護基幹科目の科目群を配置します。

看護学及び関連領域の蓄積に基づき、人と社会を支援するための専門的技能の基盤となる価値・知識・技術を、講義・演習・実習等により体系的に身につけるために、看護基幹科目および看護展開科目の科目群を配置します。

看護師、保健師の国家資格取得に必要な指定科目を配置します。また、すべての科目は、双方を養成するために十分な水準とします。

【教育方法】

１．アクティブ・ラーニング型講義

学生が関心や意欲を高めて知的好奇心を育て、価値と倫理教育の基盤である感性を磨くために、「教養ゼミ」(コミュニケーション技法)を配置します。そして、専門職養成と市民性涵養のために、学生の知的好奇心を発展させ、問題解決への知識や技術を高める授業を展開します。

２．シミュレーション教育

模擬的な状況を設定して、学習者としての個人やチームで看護ケアを行います。その経験に基づいて、最善の看護ケアを提供するにはどのような専門的な知識・技術・態度を備えていなければならないのかについて、互いにディスカッションを中心に，関連資料を活用したり，指導者からのフィードバックを参考にしたりしながら看護職者としての能力を高めます。

３．ICT（Information and Communication Technology）の活用

講義・演習などの一部を、適宜 Zoom などのオンラインを使用しながら行います。医療の場においても必要とされる ICT に慣れ、コミュニケーションツールとしての活用と共にマナーも身に着けていきます。

４．ピアサポートを活用した国家試験対策

チューターや国家試験対策教員などを中心に、学生個々の学修状況を把握することにより、学生全員が国家試験に合格できるように支援します。看護師国家試験対策は、1 年次より 4 年次まで開講し、資格試験勉強においても自主性を育みます。また、学習を習慣づけ専

門的な知識を定着させるために、学習目標は個人とチームで設定し、個々の力を育てるのみでなくグループダイナミクスにより互いに学び、励まし合う場を提供します。

【評価】

4年間の総括的な学習成果として看護研究を課し、その成果を発表する場を設けます。また、カリキュラム改善のため、学期あるいは学期の中盤に学生の成績や授業への参加態度を確認するほか、授業評価を受け教育内容や方法の見直しを行います。また、ディプロマ・ポリシーに基づいた教育活動をその効果や効率的観点をふまえ組織的に推進します。

ディプロマ・ポリシー

教育理念・目標に沿って設定した授業科目を履修し、以下のような能力を身につけ、所定の単位を修めた者に学士（看護学）の学位を授与する。

１．平和を希求する姿勢を持っている。（平和の希求）

２．豊かな教養を身につけている。（教養・人間性）

３．高い倫理観と責任感をもち、他者との信頼関係を築き協働できる。（倫理観・協働）

４．看護専門職者としての役割を認識し、看護の実践に活用するための専門的知識を身につけている。（知識・技能）

５．地域に生活している人々に対して深い関心と理解する姿勢を持っている。（関心・理解）

６．自らの学びを通じて人々や地域社会に積極的に関わり貢献しようとする意欲を持っている。（地域貢献）

７．多様な保健医療福祉の場において多職種との連携の中で、看護専門職としての機能を発揮する行動ができる。（多職種連携）

８．社会情勢や人々の健康に関する課題に沿った看護のニーズを意欲的に探究する姿勢を身につけている。（探求心）

９．異なる文化や多様な考えを受け入れ、看護職者としての価値観を形成することができる。（受容・創造）

○健康科学部リハビリテーション学科の３つのポリシー

アドミッション・ポリシー

理学療法士・作業療法士は、リハビリテーション医療において診療補助を行う専門職である。理学療法学専攻・作業療法学専攻では、「心技一体」という建学の精神を継承し、専門職として必要とされる資質や能力を学習により高めていくことになる。理学療法士・作業療法士に求められる能力や適性は様々あるが、特に大切に考え、求める人物像を以下に 3 点示す。

・ボランティアの素養を持ち、他者の希望や苦悩を理解できるようになりたい人
・身体の仕組み、病気や障害の成り立ち、治癒過程を深く学びたいと思う人
・相手の言いたいことに耳を傾け、相互に意見を交換できる能力を高めたい人

カリキュラム・ポリシー

【教育内容】
教育課程を基礎分野、専門基礎分野、専門分野の 3 分野に大別し、学年進行とともに体系的に学習を進める。
(1) 基礎分野：幅広い視点を持つ豊かな人間性とともに、科学的な思考力の基礎を涵養できる授業科目。
(2) 専門基礎分野：理学療法学・作業療法学の基盤となる専門的知識・技術を学習できる科目、専門職種と協働・連携するための基盤となる周辺知識を学習できる科目。
(3) 専門分野：理学療法士・作業療法士としての基本的な考え方や態度を学習できる科目、効果的な理学療法・作業療法の実践に必要な知識と技能を学習できる科目、先駆的な理学療法・作業療法へ発展させる能力を養う科目。

【教育方法】
効果的に学習を進めるため、以下の 3 つの教育方法を使い分ける。教育にあたっては、学生の主体的な学びや学生-教員間及び学生間の対話的学びを促進するため、アクティブ・ラーニングの活用等を積極的に導入する。また、担任制、チューター制を併用し、全般的学習と学生生活を支援する。
講義：語りや問答を通して学習内容を伝える方法。
演習：模擬的、仮想的な体験や学生間の相互作用を通して学習内容を伝える方法。
実習：直接的、実際の体験を通して学習内容を伝える方法。

【評価】
教育方法の特性に合わせ、記述試験、口頭試験、実技試験、学習成果のルーブリック評価などを用いる。

ディプロマ・ポリシー

広島都市学園大学健康科学部リハビリテーション学科理学療法学専攻・作業療法学専攻では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業を認定する。
(1) 慈愛ある豊かな人間性と人間を広い領域から捉える教養を身につけている。
(2) 理学療法・作業療法を実践するための専門的知識・技術を身につけている。
(3) 生命の尊厳や人間尊重を基本とする高い倫理観を持ち、自律して行動できる思考力や判断力を身につけている。
(4) 理学療法士・作業療法士として課題を解決しようとする情熱と創意を持っている。
(5) 地域社会・国際社会の一員として、専門職種と協働できる専門知識、コミュニケーション能力を身につけている。

○子ども教育学部子ども教育学科の３つのポリシー

アドミッション・ポリシー
子ども教育学部では、「心技一体」の建学の精神に則り、学生一人ひとりが人間としてよりよく生きること、子どもの成長に関わる楽しさや保育・教育の専門職としてのやりがいを追求することができるように支援する。 その上で、 １．平和な心と豊かな人間性をもつ人材の育成を目指す。 ２．柔軟な思考力に基づく知識・技術と人権尊重を基盤にした実践能力のすぐれた人材の育成を目指す。 ３．時代の変化に合わせて、地域社会・国際社会に貢献できる心と技を備えた人材の育成を目指す。 そこで、以下の資質・能 力を持った学生を求めている。 ・ケアの精神と能力を有し、人を思いやり、人を愛する心のある人 ・教育者、保育者としての高い資質を身につけ地域社会において活躍したい人 ・自分の考えを積極的に表現し、他者とコミュニケーションをとり、協働して問題解決に取り組むことができる人 ・ボランティアの精神を持ち、積極的に活動しようとする人
カリキュラム・ポリシー
本学の教育理念に基づき、高い教養と豊かな人間性をもった専門職を養成するため、教育課程を「基礎教養科目」「専門基礎科目」「専門発展科目」の３群で構成し、体系的な学修、専門的な技術の修得を図る。 １.「基礎教養科目」は、人間力の育成を中心とした、大学での学びの基礎となる授業科目とする。 ２.「専門基礎科目」は、教育・保育を専門とする基礎的な知識や技能を修得する授業科目とする。 ３.「専門発展科目」は、教育・保育の高度な知識や技能を修得する授業科目とする。 とりわけ、ケアすることの重要性を学び、教育・保育の専門的資質や能力、実践力を養成する。さらに、特別な支援を必要とする子どもへの理解やかかわり方について学ぶ。 また、地域の小学校・幼稚園等や学内の保育施設、子育て支援拠点と連携して体験的な学びを展開し、理論と実践の往還による学修の深化を図る。
ディプロマ・ポリシー
子ども教育学部では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生は、卒業が認定される。 １．平和を希求し、その教育に努め、幸せな人生を創造しようとする力 ２．人間愛のもと、ケアすることの意義を学び、教育・保育の専門的な知識・技術との統合を図る 力 ３．修得した専門的な知識・技術を活用し、教育者・保育者として実践する力 ４．教育者・保育者として、子どもの育ちや学びに関わる問題について時代の変化を見通して研究し、新たな価値の創造を図る力 ５．社会との連携を図り、人々の教育的・保育的ニーズや社会的ニーズに応えることができる力